

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良く なっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・東日本大震災直後の3月と比べると、約70%と相当数の客が戻ってきている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・東日本大震災後、極端に落ち込んでいた売上が今月になって前年並みの売上に回復してきた。購買意識の高まりを感じる。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・客単価は依然低いものの、東日本大震災直後から少しずつではあるが客足が戻りつつある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・東日本大震災の影響による買い控えの傾向はやや落ち着きを見せ、消費も回復傾向にある。ただし、観光需要の回復にはまだ時間がかかる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・東日本大震災から3か月が経過して、消費マインドが落ち着いてきており、季節商材に対する動きは少しずつ上向いてきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・バーゲンの前倒しがみられるなか、気温の上昇とともに客の購買意欲が増してきている。バーゲンを前倒ししている店では実際に売上も上がってきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前と比べると、観光バスの台数が若干増えてきている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・東日本大震災の影響が大きかった3～4月の景況と比べれば、来店客の動きや購買意欲は格段に高まっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・前年と比べて気温が若干低めに推移しているため、衣料品等の動きは厳しい状況にある。その分、食料品と家庭用品が堅調に推移しており、店全体としてはほぼ前年並みという状況にある。東日本大震災の影響も3か月が経過したことで、少し落ち着いてきており、客も必要な物はしっかりと購入するようになっている。ただし、実需品主体の動きはあまり変わらない。
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・3か月前は東日本大震災の影響で消費意欲が低かったが、6月は全体の景気も回復しているなか、高額商品を購入する客も多くなってきた。また、観光客も国内にとどまらず、海外からも来るようになってきている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・地上デジタル放送への移行を直前に控えて、テレビやチューナー、アンテナ工事の受注が増加している。さらに、火災報知機の義務化により報知機の販売も大幅に増加している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・中古車相場の上昇にともない、乗換えの時期と判断する客が増えてきた。ただし、需要は軽自動車と小型車がほとんどである。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・メーカーからの車の供給が回復してくるに連れて売上が回復基調になってきている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・気候がやや良くなったため、売上が増加している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・6月の取扱額は、国内旅行が前年比99.9%、海外旅行が前年比131.8%となっている。国内旅行が若干前年を下回っているものの、海外拳式プランが好調で、全体の状況はやや良くなっている。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・東日本大震災により遠方の客とのつながりが一時的に弱まっていたが、再び交流が活発化しつつある。	
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前は利用客が前年比で7割減だったが、現在は3割減程度まで回復してきている。	
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・東日本大震災後、遠のいていた客がだいぶ戻ってきている。震災の影響でマンションの供給量が減ってきているため、需給関係はかなり改善されている。こうしたなかで、販売量もやや増加している。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子は以前と変わらず、現状のままで推移している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前と比較すると、修学旅行及び外国人観光客などによる航空会社を含めた交通機関等の利用者数は増加しているが、購入品目は土産品等に限定されており、一般的な買物客は減少している。特に、気温の上昇があまり進まないため、夏物衣料品を取り扱う店舗は売上が伸びていない。

一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・前月と比べると、売上も回復基調にあり、少しは明るい兆しが見えている。1件当たりの買上点数も以前と比べてそんな色がなくなってきた。	
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・6月の売上は25日現在、前年比97.7%となっており、ここ3か月のトレンドである前年比95%を上回っているものの、買上客数は前年比94%前後と回復していない。	
百貨店（役員）	来客数の動き	・東日本大震災後、消費マインドの低下が心配されたが、予想以上に消費動向は落ちていない。ただし、良いというほどではない。	
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・本州では景気がやや上向きのようなが、震災特需も終わり、これといった明るい材料がない。	
スーパー（役員）	お客様の様子	・東日本大震災の影響による商品の欠品等もかなり回復しており、通常の消費動向に戻っている。	
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・引き続きたばこの販売量の回復が売上をけん引しているが、それ以外の商品の回復は遅い。客単価も前年並みまで回復しない状況が続いている。	
家電量販店（店員）	販売量の動き	・小型液晶テレビが駆け込み需要でよく売れている。エアコンの売行きも好調である。	
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・7月24日のアナログ停波に向けて、テレビの駆け込み需要が多くなってきている。	
自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・積極的な販促活動でなんとか踏ん張っているが、来客数、販売量ともに苦戦している店舗も多いとみられる。	
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・自動車用燃料の販売量の減少が続いている。	
高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・今月はやや悪いが、業界全体では自粛不況が落ち着き、低価格店の一部には客足が戻りつつある。一方で、高級店には最低限の客だけで、商売としては厳しい現実がある。	
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・極端に平日の来客数が減少している。週末や休日前は予約での来客があるが、平日のフリー客が特に少ない。	
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・海外客は幾分回復の兆しが見えるものの、依然として本州方面からの日本人客の予約が低調である。	
設計事務所（所長）	お客様の様子	・仕事の話はあるものの、なかなか契約までは進まない。	
やや悪くなっている	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・催事場での物産催事を3週連続行っただが、東日本大震災の影響もあるのか、客の入込が厳しいなか、買上客も少ない状況であり、前年比90%台前半の売上となっている。衣料品については、猛暑だった前年とは違い、羽織物に動きが多少あったものの、半袖物の動きがみられない状況である。
	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・以前は売上総額が前年を超えるまでには至らなくても、来客数の減少が続くなかで、客単価上昇の傾向が続いていたが、今月は来客数の減少に歯止めがかからないなかで、客単価も低下に転じてしまった。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・水着、浴衣等の盛夏商材が不振である。気温が前年ほど高くないことに加えて、東日本大震災の影響による水離れ、祭などへの参加自粛により、販売量が伸びていない。また、食品も野菜の相場安から不振である。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・既存店における客単価は前年比100.8%とこの数か月大きな変化はないが、来客数が前年から2%前後減少していることで、販売量が落ち込んでいる。東日本大震災後の影響で買い控えや来店回数の減少が続いているとみられる。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・東日本大震災以降、温泉地や観光地の来客数が減少しており、週末の売上減少が続いている。また、夜間のアルコールの売上も減少しており、消費マインドは低下している。
	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・医薬品等の必需品の購入は最低限保たれると思われがちだが、実際は買い渋りが多くみられる。調剤においても間引き服用が起きている。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・観光客の入込が悪い。高速道路無料化社会実験が廃止になったことと東日本大震災の影響が原因とみられる。

	観光型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・近隣アジアからの観光目的の宿泊客が前年比で9割減となっている。一方、国内のビジネス・観光目的の宿泊客は前年並みまで回復したが、客単価は約2割の減少となっている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・3月の東日本大震災以来、人の動きが少なくなっており、観光客も一向に回復していない。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・3か月前との比較であれば、約4%の売上増となっているが、前年には約7%の売上増があり、前年実績との比較では約10%の落ち込みとなっている。東日本大震災の影響がまだ大きく、身の回りの景気が回復しているとは思えない状況にある。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・福島原子力発電所の事故の影響で、西日本からの客と海外からの観光客が減少している。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・東日本大震災及び福島原子力発電所の事故問題以降、東南アジアからの来場者が激減している。ただし、5月に入り、台湾、香港の来場者が若干訪れるようになってきている。また、東北方面に出かける修学旅行が減少し、道内に来る修学旅行が増加している。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・東日本大震災の影響で足元の景気は非常に悪くなっている。	
悪くなっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・自社新店も含めこの3か月間に競合店が4店舗増え、それにとまなう価格競争のため、客単価が下がっており、売上も利益も減少している。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今月の売上は前年比80%を下回り、東日本大震災以降で最も厳しい月となった。高速道路無料化社会実験の廃止、福島原子力発電所の放射能問題等から観光客の落ち込みはひどく、7月以降の対策に腐心している。	
	通信会社（社員）	お客様の様子	・客の購買意欲が慎重になっており、この先どうなるか全く見えないから今はいらぬという言葉が毎日のように聞いている。閉店する店も出てきている。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・東日本大震災の影響から、前月に引き続き観光客が減少している。特に観光最盛期が近づいていることから、その輸送量の減少は当社を始め地域経済に深刻な影響を与えている。	
企業動向関連	良くなっている	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前年比でみると売上は伸張している。
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災後の混乱が少し落ち着いてきた。滞っていた請負物件が動き始めた。
		建設業（従業員）	競争相手の様子	・医療施設や高齢者福祉施設の工事の見積発注が相次いでいるが、一部に東日本大震災や福島原子力発電所の事故問題の影響もあって、建設会社によっては職員配置に困難が生ずることから、受注を断念する事態も生じ始めている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災直後の3か月前と比較した場合、受注量や問い合わせの件数が多少回復傾向にある。
		金融業（企画担当）	それ以外	・東日本大震災直後からみれば、景気は低水準ながら良くなっている。自粛ムードも薄れ、観光関連もわずかに持ち直してきた。建設業などでは、復旧工事で需要増の企業もみられる。一方、原材料価格は更に上昇していることで収益確保に悩む企業が多い。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・農家が繁忙期に入り活気が出てきた。
変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・確保している原料に限りがあるため、積極的に受注に出ることができない状況にある。	
	金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・加工単価が下がっている一方で、材料代が上がっているため、なかなか景気が良くなってこない。	
	金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・販売量などをみてもあまり動きに変化がみられない。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・本州地区が暑くなってきたことで、飲料品は出荷が順調になりつつある。牛乳の本州への輸送も前年より早く増量輸送となっている。ただし、前年の農産物不作により在庫が少ないため、輸送量は激減している。	

	司法書士	受注価格や販売価格の動き	・住宅関連企業では例年になく受注量が低下している。そのため、土地取引関係も思うように伸びない状況にある。
	司法書士	取引先の様子	・政治の混迷、災害復旧の遅れ、景気回復のための諸策の不足等で大型消費に期待できない状況に変化はない。消費税増税の動きもあり、消費拡大、経済向上の動きが不足している。
やや悪くなっている	食料品製造業（団体役員）	それ以外	・東日本大震災後にみられた生鮮食品や珍味の受注量の増加も平常に戻った感がある。一方で、福島原子力発電所の事故解決の不透明さと原料や資材の高騰の影響もあり、受注量は以前よりも減少している。また、電力需要の逼迫や高速道路無料化社会実験の廃止、観光産業の回復遅れと地域経済が落ち込んでいることもマイナス要因となっている。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災の影響により、代替港として貨物の取扱量が増加傾向にあったが、時間の経過と共に落ち着きがみられるようになってきた。
	その他サービス業【ソフトウェア開発】（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事量が減っている会社が周りで増えてきている。
	その他非製造業【鋼材卸売】（役員）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災の影響で北海道全体での仕事量が一時的に減っている。
悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・土地売買、建物の新築の件数が相変わらず少ない。
雇用関連		-	-
良くなっている			
やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3月に発生した東日本大震災直後は、流通業界においてキャンペーン、販売促進イベントが皆無となり、パートを含めて求人が激減したが、3か月がたって、ようやく前年の2割減まで持ち直してきている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は前年比107%と東日本大震災前の状況に戻りつつある。激減していた観光客も少しずつ戻ってきており、これにともなって宿泊業関連の求人が増えてきている。道外の業務請負系の求人も、復興需要と思われる増加がみられる。道内の業務請負、紹介・派遣の求人も活発になってきている。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・本州方面への製造業の派遣、紹介を含む求人が若干増加傾向となってきているが、いまだ安定的ではない。
	新聞社【求人広告】（担当者）	求人数の動き	・今月も募集広告の売上が前年を上回った。売上の大きい派遣業種は15%ほど数字を落としたものの、介護関連を中心とした医療、農作物運搬の運輸、運送業種が前年を大きく上回り、派遣業種の減少を補い、更に乗せしている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人倍率に変化がみられない。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・4月の新規求人数は前年を6.9%上回った。新規求職者数は前年を1.7%下回った。月間有効求人倍率は0.48倍となり前年の0.38倍を0.10ポイント上回ったが、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合が44.4%となっている。求職者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職は8.3%増加し、16か月連続で前年を上回った。また、月間有効求職者数は2.3%増加し、2か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	それ以外	・管内の求人倍率は0.38倍と前年を0.07ポイント上回ったが、前月を0.04ポイント下回るなど、水準の低い状況が継続している。
	学校【大学】（就職担当）	周辺企業の様子	・3月の東日本大震災から時間がたち、新卒採用を初めとした就職環境の回復を期待しているところではあるが、社会全体の節約、節電等の方向が維持されているなか、企業との対応においても採用等の動きが停滞している。一部の企業からは2013年卒業生の採用動向も今年度並み、もしくは減少の方向にあることを伝えられている。

やや悪く なっている			
悪く なっている	-	-	-